医動物学

［講義］　第2学年　前期　必修　1単位

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》松尾淳司

【概　要】

医動物学では、ヒトに疾病を引き起こす寄生虫および衛生動物を対象とする。寄生虫感染症は開発途上国などにおいては、未だ主要な感染症であるが、衛生環境の改善に伴い、かつて流行していた土壌媒介性の寄生虫感染症は大きく減少した。そのため、今日の日本において寄生虫感染症は過去のものと思われがちであるが、決して無くなったわけではない。むしろ、一部の寄生虫感染症では増加しているものも認められる。また、衛生動物は単に疾病を引き起こすだけでなく、ベクターとして、あるいは食品衛生などの点で問題となっている。そこで本講義では、寄生虫の分類、形態、感染経路、病態、および検査法について学ぶとともに、ヒトに病害を引き起こす衛生動物の生態について学ぶ。

【学習目標】

1）臨床検査に必要な知識と技術を習得するために、医動物学の概要を理解する。
2）医動物学で対象となる動物の分類を説明できる。
3）原虫類の感染経路、病態、検査法を説明できる。
4）マラリア原虫の感染経路、病態、検査法を説明し、その鑑別点を説明できる。
5）蠕虫類の感染経路、病態、検査法を説明できる。
6）寄生虫検査法の概要と選択の基準について説明できる。
7）衛生動物の生態およびヒトへの病害を説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	医動物学総論	・医動物学とは ・原虫と蠕虫 ・寄生虫学で用いられる用語 ・寄生虫の分類、疫学、寄生適応機構、免疫回避機構 教科書：p3-10	松尾淳司
2	原虫総論 アメーバ	・原虫の分類、形態、生理 ・赤痢アメーバと大腸アメーバ ・自由生活性アメーバ 教科書：p12-25	松尾淳司
3	鞭毛虫	・ランブル鞭毛虫、腟トリコモナス ・トリパノソーマ、リーシュマニア 教科書：p26-33	松尾淳司
4	マラリア原虫	・マラリアの歴史、分類、病態、検査法 教科書：p44-52	松尾淳司
5	胞子虫 繊毛虫	・クリプトスポリジウム、サイクロスポーラ ・トキソプラズマ ・大腸バランチジウム ・ナナホシクドア 教科書：p34-43、p53、p60	松尾淳司
6	線虫1	・線虫の分類、形態、生理 教科書：p64-65	松尾淳司
7	線虫2	・回虫 ・鉤虫、東洋毛様線虫 ・鞭虫 ・蟯虫 教科書：p66-67、p78-87、p98	松尾淳司
8	線虫3	・糞線虫 ・旋毛虫 ・バンクロフト糸状虫とマレー糸状虫、 ・回旋糸状虫 教科書：p86-87、p92-93、p96-97、p99	松尾淳司

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
9	吸虫1	・吸虫の分類・形態・生理 ・肝吸虫と横川吸虫 ・肝蛭 教科書：p102-107、p118-119	松尾淳司
10	吸虫2	・ウェステルマン肺吸虫 ・日本住血吸虫 ・マンソン住血吸虫、ビルハルツ住血吸虫 教科書：p110-113、120-123	松尾淳司
11	条虫	・条虫の分類・形態・生理 ・日本海裂頭条虫 ・無鉤条虫と有鉤条虫 ・小形条虫と縮小条虫 教科書：p128-135、p140-141	松尾淳司
12	幼虫移行症1	・幼虫移行症とは ・イヌ・ネコ回虫、アニサキス、広東住血線虫 ・犬糸状虫、顎口虫 教科書：p68-77、p88-91、p94-95	松尾淳司
13	幼虫移行症2	・宮崎肺吸虫 ・マンソン裂頭条虫、エキノコックス 教科書：p114-115、p132-133、p136-139	松尾淳司
14	寄生虫検査法	・糞便検査法 ・血液検査法 教科書：p188-195	松尾淳司
15	衛生動物学	・ダニの分類と媒介動物としての役割 ・昆虫の分類と媒介動物としての役割 教科書：p144-173	松尾淳司

【評価方法】
定期試験　80%　　課題　20%

【備　考】
教科書　：吉田幸雄　他　著「医動物学　改訂７版」　南山堂　2018年

参考書　：平山謙二　著「最新臨床検査学講座　医動物学」　医歯薬出版　2016年

その他　：クリッカーを使用した双方向型授業を行う。

【学習の準備】
教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。（80分）
講義で学習した部分について理解しておくこと。（80分）

【ディプロマポリシーとの関連性】
（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。